
仮面ライダー 幻想郷～原点の風が幻想入り

本郷一刀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー 幻想郷 原点の風が幻想入り

【Nコード】

N5414X

【作者名】

本郷一刀

【あらすじ】

かつて、世界の裏を操作していた秘密結社『シヨッカー』を壊滅させた

4人の改造人間たち、そのシヨッカーの恐怖が『幻』となった今、若きライダーの闘いが再び・・・

第巻話『再び駆け抜ける風』

少し前まで、「シヨツカー」という組織と戦っていた戦士たち中で、プロトタイプ唯一試作品の戦士がいた。その戦士は、他の3人の戦士とは別の道に進み、学生として暮らしている。しかし、そんな平和は、長くは続かない。平和にするまでは時間がかかるが、平和を壊すのは一瞬だ、その一瞬を彼はのんびりと過ごしたかっただけだった。それは人々の心からシヨツカーの恐怖が「幻」になっていた時のことだ。

やっと落ち着ける生活を送れるようになった、風見さんや本郷さんは教師として一般人の中に紛れ、一文字さんは各地に飛んでカメラマンとして活躍しているなか俺はただの学生として紛れ込んでいるが、落ち着かない。また何か起りそうな気がして仕方ない。

「北郷君、おはよ〜」

「ああ、おはよう」

とそっけなく返事してしまう。自分が嫌だが、あの日以来あんまり人とかかわりたくない、俺はもう、ホッパープロトタイプ01として改造されてしまったあの日からだ、まったく俺は、あの人たちには追いつけない。

「ねえ……少し遊ばない？」

「へ？」

不意に背後から声をかけられ、振り向くが誰もいない。空耳かと思

い振り返ると、美しい女性が、目玉がたくさんある空間から上半身を出していたが周りは気付かない。というよりも周りの人がいない。そして、俺までその目玉だけの空間に吸い込まれていた。

「ここはどこだ！シヨツカーの一員か！」

「いいえ、違うわ、むしろその逆、あなたの力が借りたいの」

「……力を……どういう事だ」

「貴方達が戦っていた敵がちょっとこっちに来ちゃって残虐を始め
てね、私達でも手に負えないの」

その言葉で脳裏をよぎったのは、目の前で殺された家族の姿だった、
そして同じ思いをしている人がいると考えると怒りがこみ上げてきて、
顔の傷が少し浮かび上がっていたらしく、
相手は少し表情を変えていた。

「分かった、だが相棒も連れ^{バイク}ってけよ」

「解ってる」

意志の決定は思いのほかあっさりとしていた自分に驚きを隠せない
でいる。だけど、迷いが無い方が幸せかもしれない。脳改造をシヨ
ツカーの面白半分でされなかった俺にとってはただけど……

第弐話『闘いは再び』

俺が目的地に着くとそこには、シードドラゴンが人を殺そうとしていた。しかし、すでに何人が殺したらしくシードドラゴンに血が付いていた。赤く鮮やかな血と黒く染まった血が、

そして、シードドラゴンは転んだ子供を絞め殺そうと近づいてくる。子供は恐怖でその場で泣き始め逃げようにも足がすくんだらしく動けない。そこに蒼い服を着た女性が子供を抱きかかえるが、シードドラゴンはすでにその背後にいて手の触手を伸ばそうとしていた。

「はああああー!!」

「ぐ……貴様はホッパー01!」

「久しぶりだな、ショツカーの怪人、さあ君はその頃連れて早く」

「ああ、どこのだれか知らないが助かった。」

「礼はいらないよ……さあ残りの2体も出てこいよ」

女性が遠くに行ったのを確認し、シードドラゴンの残り2体を見つ不出す。

そして、徐々に俺の体が装甲で覆われ、ヘルメットの様に仮面を付け戦闘準備は終わり相手に向かって走る。

.....

あれ？あの人かず君？でも雰囲気違うけど、かず君だ、
なんで幻想郷に？って変身した！？あれって確か仮面ライダー旧1
号？

ベルトも白いし、目も白いし、身体は黒いし、赤いマフラーだし、
あつ混乱してきたけどとりあえず避難誘導しないと！

.....

シードラゴン1の頭をつかみ、支点として使い身体を宙にあげてそ
のまま相手の頭を砕き、その体をシードラゴン2にぶつけて、飛び
上がり相手にライダーパンチを浴びせる

「ライダーパンチ、二段返し」

シードラゴン1、2を破壊した北郷ライダーはそのまま逃げようと
する、シードラゴン3を捕まえ情報を聞こうとサイクロンで轢き飛
ばし捕まえる

「さあ貴様のボスはどこにいる？」

「俺たちは、そんなことを貴様などに言うものか！」

「言いやがれ！」

「ふん、ヒントをやるう、怪人は俺たちを含め、10体だ、10体
だけでもここは征服できる！！」

と言い残したあと相手は爆発した。シヨッカーは証拠を残さないた
めに怪人たちを爆破し、強い酸で溶かす。用済みの処分に関しては
徹底している。

「消えたか、あと7体の怪人が、スパイダー、バット、コブラ、スネーク後の3体は誰なんだ？」

と疑問を残しながらも変身した姿からいつもの姿になり、あたりを見回すがシヨツカー戦闘員の姿すらなく、怪人単独の行動とみていらしい。ただ久々の戦いのせいで、リジエクシオン（定期的に血液を交換しないと起こる拒絶反応）のような現象に見舞われる。

「具合はあまり良くないみたいね」

「半年のブランクがあるからね……でも心配されるほどでもないから大丈夫だよ……え〜つと名前は？」

「八雲紫よ貴方は北郷一刀、またの名をホッパープロトタイプ」

「いや今は仮面ライダーとして都市伝説になってるよ」

「でどう？相手の人数は解った？」

「ああ、とりあえず後7体の怪人がいるってことだけ」

その後一刀は被害の確認をしに行った。死者13人、負傷者30人と少ないような気がするが、この里にとっては大きい被害である。

「あのさあ〜八雲さん俺の家はどこになるんですか？」

「あつそれならいいところがあるわ！」

と言われ、サイクロンごと「スキマ」と呼ばれる物を通り、目的地に着いたが何時もスキマにはあんなにも目玉があるのだろうか？気

にしちやいけない所かもね。

「到着」

「ここどこ？」

「貴方の知り合いがいる所なはずよ」

「知り合いつてもうこんなに日が暮れて帰り大丈夫ですか？」

「心配してくれてうれしいけど大丈夫よ、きちんと先に連絡したら大丈夫だからはいりなさい。」

「了解、ふう、失礼します」

「はい」

「どうも八雲さんからここでお世話になれと……ってさなちやん!？」

「かずくん!？」

「おや、一刀じゃないか」

「神奈子さん!？」

と意外にも昔仲良くしていた親子?(一刀支点)がそこにいた。そして見たかった微笑みが見れたことで今まで感じなかった物を久々に感じた。がそれと同時にまた戦いの渦にみを通すこととなる意味でもある。

第参話『再会、幼馴染そして新たなる闘い』

束の間の平和というほどでもないが、個人的に満足している。がしかし、何で思い出話

しかも恥ずかしいのばつか話すんですか!?

「いや、早苗が五歳のころ二人で、迷子になった時、私を見つけて早苗は大泣きして、一刀はそのまま、早苗を泣かないようにしてくれたっけ」

「それは昔のことです」

「そうですね……」

「でも中学のバレンタインの時なんかさあ、他の女から一刀を守ってねえ、自分の部屋に逃げ込んだときはちょっとひやひやしたけどね」

「あれは俺も驚きましたしちょっと……」

「「ちょっとって何かな?」」

しまった!墓穴掘った!?!さすがに神様に嘘言つのもまずいし、どうしたらってかさなちゃん頭からめっちゃ煙出てるよ!?!俺でもそんなことできないのに

「葛藤してるね、相変わらずでよかったけどね」

「はい?」

「諏訪子悪いけど今ショート中な早苗を早苗の部屋に連れてって」

「はいよ〜」

さなちゃんを連れて諏訪子さんはこの部屋を出て行った。そして神奈子の顔はさつきまでの笑顔とはちがい真剣な表情になりこちらを見るそれに合わせて俺も真剣な顔にする

「でいつからそうなつちまつたんだい？」

「貴女達が行方不明になった日の次の日に貴女方を探しに神社のあった場所から帰る途中でした。ショッカーに捕まり、その後このよな体にされ、あいつ等の気まぐれで、脳改造はされずに済んで、1号と共に脱出しました、その後は1号を抹殺しに来た2号、V3と共にショッカーの怪人軍団を壊滅させました。がまさか、こんな事になっているなんて」

「ここは幻となったものが来る場所、それ故に善悪は問わないからね、ただ今回に関しては紫にも手が負えない状況になっちゃっただけさ」

「それで俺をここに・・・っ!？」

激しい痛みと共に吐血するような感覚が俺を襲った。今までに無いほどの辛さ、どうしてだ?なぜここに來てからこれが起こる!・・・はっ!?! シードラゴンは囀か!?!

あいつらに俺達ホッパーだけに作用する毒を仕込んでおいたのか!?

「大丈夫かい？」

「ええ、あいつら俺たちの誰かが来ることは予想してたらしいです、毒を盛られました、すみません」

「毒！？知り合いになんでも医者がいるから、紹介するよ」

「いえ大丈夫です。並みの人間じゃないですし、これは俺達ホツパ―殺害用の毒だと思います、それにさなちゃんには内緒にしてください。」

「ああ、早苗の事だ、お前を絶対に戦わせないだろう。」

「ええそれと、早速敵が来たようです。」

「え？」

改造された俺には分かるこの音は・・・バイクしかもこのタイプだと、シヨツカーライダー軍団、数は4機、やれる！

「神奈子さんは、隠れてください。俺がやります！」

「いやここは私も出るよ」

「ならこの防衛をおねがいします。俺の帰る家でもあるので」

と言うと顔の手術跡が浮き上がっていたのを見ていないのに気付きそのまま、俺は変身し外で、シヨツカーライダーとの戦闘に映った。

.....

.....

「ホッパーP1を確認、コレヨリ、殲滅スル、行くぞ」

「.....」

無言のままシヨッカーライダーたちは目の前の仮面ライダーにミサイルダーツを投げるが、すべて蹴り返されるまるで、ここを守ると言ってるかのような行動だった。

そして爆炎の中から現れるライダーに向かってくるシヨッカーライダー達.....

第参話『再会、幼馴染そして新たなる闘い』（後書き）

次回、シヨツカーライダーとの戦いを始めるライダーは連携攻撃に苦しむが、そこを助けたのは！？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5414x/>

仮面ライダー 幻想郷～原点の風が幻想入り

2011年10月19日10時04分発行